

令和8年度 第1回 水沢農業高等学校 学校運営協議会 議事録

- 1 日時 令和8年6月1日(月) 13:30~15:00
- 2 会場 水沢農業高等学校 環境工学棟
- 3 出席者 13名(欠席者2名:千葉正睦委員、菅原幸雄委員。菅原委員の代理で鈴木克弥教諭が参加)

4 議事

(1) 開会

定刻どおり13時30分に開会。

(2) 校長挨拶(要旨)

4月に38名の新入生を迎え、全校生徒96名の新生水沢農業高校がスタートした。この2カ月で、苗販売会、PTA総会、県の高総体、田植え実習等を終えた。高総体では陸上、ボクシング、自転車競技で上位入賞し東北大会を決めるなど、生徒たちは健闘した。

7月1日、2日にはZホールにおいて、本校主管の岩手県学校農業クラブ連盟大会が開催

される。農業高校の学習成果を発表するもので、現在準備しているところである。

今年度は文科省のDXハイスクールに採択され、ドローンを活用したスマート農業の実践、データ解析による食品製造の品質向上に取り組む。また今年度は農業大学校との高大連携もすでに始まっている。新規事業を取り入れ、魅力的な学習を実践し、「本校に入学して良かった」と思える学校づくりに取り組む。

(3) 自己紹介(資料参照)

(4) 委員長・副委員長選出(副校長)

委員長 後藤大助氏 副委員長 小宮山久美子氏 満場一致で選出

(5) 学校経営計画について(校長) 資料3ページ

4の目指す学校像の(1)重点目標について、「いじめ」についての対応を最上位に掲げた。安全・安心して過ごせる環境づくりをさらに強化していきたい。また、達成指標について、昨年度の学校評価の結果を鑑み、昨年度より少し高く88パーセントとして設定した。取組についてはアの(ウ)に「生徒会等による自発的ないじめ防止意識の醸成」を新たに盛り込み、「いじめの取組」に関して生徒が主体的に取り組めるようにした。

(拍手で承認)



(6) スクールポリシーについて (校長) 資料3ページ

昨年同様、3つのポリシーを掲げた。育成に関しては「課題発見や人間形成」について重点的に取り組む。教育課程については本校の2学科(農業科学科と食品科学科)について、横断的な学びを推進する。探究活動についてもプロジェクト学習の充実を図る。入学者の受入れに関しては農業や食品に関心がある生徒を積極的に募集したい。

(拍手で承認)

(7) 令和8年度高等学校等デジタル人材育成支援事業事業費補助金(高等学校DX加速化推進事業)について(副校長) 資料4ページ



DX ハイスクールは、文部科学省の補助金事業として、情報・理数教育の強化とICT活

用により文理横断的な探究学習を推進し、デジタル社会を担う人材育成を目指す取組で、

令和8年度で3年目の事業である。今年度岩手県では22校が採択され、そのうち新規採択校は本校のみ。

本校は次の2つを柱としている。

農業科学科：農業用ドローンを活用したスマート農業教育

食品科学科：食品製造・加工分野でのデータ活用

今年度は約1,000万円の予算で、以下を実施する。

高大連携：県立大学によるデータサイエンス授業、農業大学校との共同授業

産業連携：工業技術センター見学

地域連携：先進農家見学

環境整備：農業用ドローン、データ解析用PC、各種ICT機器の導入

これにより、実践的なデジタル教育と地域・産業と結びついた学びを推進する。

質問

千葉祐悦委員 継続できる事業か？

藤田 3年まで継続予定だが、国の事業なので不透明なところもある。

千葉委員 この予算がなくなった場合のドローンの維持費について。予算が切られた場合、機械メンテナンスが必要なので、その場合同窓会としてお手伝いできることがあれば、と思っている。

藤田 大変ありがたい。

(8) 「いわて留学」(県外募集)における本校の募集枠の変更について(校長) 資料5～6ページ

令和9年度入学者選抜「いわて留学」募集において「特色教育課程校」から「地域ふる

さと振興校」枠に変更する。それに伴って募集学科を「農業科学科」から「農業科学科及び食品科学科」に変更し、両科を募集対象としたい。理由としては本校の近年の入学集者数の現状を鑑み、生徒獲得のために募集枠を拡大させたい。「馬学」の履修を条件としてしまうことにより志望枠を狭めていると考える。両科からの志望・受検を可能にし、広い見地から生徒募集したい。

意見・質問等

千葉祐悦委員 これまでの募集で「馬学」が「馬術部」に限定した必修になっているので、間口を広げることで中学生にも選びやすいのではないかと考える。良いことだと思う。

高橋委員 千葉さんの意見に賛成だ。「馬術」は今まで特色の一つではあったが、中学生は難しく考えてしまうのではないかと思う。間口を広げて生徒が増える可能性があるのであれば良いと思う。

(9)「地域みらい留学」参画について (校長) 資料7ページ

「地域みらい留学」とは前述の「いわて留学」と別のもので、「首都圏の生徒が地方の高校へ入学するよう仲介をする団体」である(「いわて留学」は岩手県の入試制度)。本校は近年生徒確保が難しくなっており、全国から生徒を募集できる「地域みらい留学」に参画することで学校の活性化と奥州市の人口・関係人口の創出を目指したいと考える。そのための参画費用を奥州市に要請したいと考えている。学校運営協議会にバックアップをしていただきたい。

県独自の「いわて留学」では全国的な認知拡大に限界があり、志願者増につながっておらず、定員割れが続くと学校縮小・統廃合の懸念がある。参画費用(約132万円)の捻出が必要だが、学校単独では困難である。奥州市内には7つの高校があるため、本校をどう差別化してもらえるかが課題だ。ただ、黒沢尻工業高校では北上市に4つの高校があるが、北上市からこの費用を頂くことができているので、不可能ではないと考える。

質問・意見等

後藤委員 132万を支払うと具体的にはどのようなことができるのか。

植木 132万を支払うと東京での対面の説明会(フェア)に1回(紹介ブースを一つもらえる)、オンライン説明会に3回参加することができる。また、学校を紹介する本や団体のHPに紹介文が掲載される。これを首都圏の中学生が見て学校を選ぶという仕組みだ。

後藤 掲載される期間はどのくらいか

植木 1年間である。うまくいった場合、実際に動くのは令和9年度となる。

後藤 実際、成果はあるのか

植木 学校にもよるが、黒沢尻工業は昨年度4人獲得した(東京3名、北海道1名)。

梅田委員 フェアでは各学校の魅力を発信するブースを作って、首都圏の生徒と対面して、という感じか。

植木 その通りだ。

後藤 フェアの参加者はどのくらいか

植木 2,000 人を超える。6 月の東京会場に一番人が集まる。その他大阪会場もある。中学3年生は8月、9月になると進路が決まってくるので、やはり6月に一番人が集まるようだ。



後藤 使い方では効果が全然違うようだから、圧倒的に目立つブースを作って、魅力が伝わるブースにするなど、事前準備は戦略的にする必要がある。自分も菓子のイベントで経験したことがある。面白いことをやっていそうな学校というのをPRして、(この留学を)うまく使えば効果もさらに上がるし、手の加え方によっては成功率も違うのではないかと思う。

植木 岩手県で「地域みらい留学」をしている農業高校はない。

後藤 本校の敷地の広さとか、東京の人たちはびっくりするのではないか。こんな学校あるの？という世界だと思う。このリアルを伝えたい。

藤田 奥州市にとってもメリットがある。奥州市は県内でも農業が盛んな地域であるにも関わらず、高齢化で耕作放棄地も増え、学校には生徒に「就農してほしい」という要望も来ている。

後藤 それと併せて奥州と農業をかけて「奥農(おうのう)留学」というキャッチコピーを作り、SNSとYouTubeでどんどん発信し、このイベントの前に「刷り込み」を図るともって効果が上がるのではないかと思う。うまくいったら楽しい企画だ。

岩淵委員 おもしろい企画だと思う。農業大学校もそうだが、卒業した生徒は地元に残る。例えば自分のところの従業員に神奈川出身の農業大学校の卒業生がいるが、卒業後はここに移住した。農業大学校の畜産を専攻している生徒の半分は県外だ。資格が取れるのはもちろんだが、家畜がいる農業大学校が少ないので、かなり見直されている。水農の良さ、例えば「和牛」でもよいし、オールマイティなところを前面に出すとよいと思う。

鈴木 132万円には学校紹介の技術的なところも教えてくれるのか？

植木 もちろん、相談に乗ってくれる。

鈴木 教員はアピールが下手なのでプロが入ると中学生へのアピール度が違ってくると思う。

菅原委員 地域の会議で奥州市の地域ごとの人口の減少が凄まじいことを知った。今、胆沢地域は2歳児が20人くらいしかいない。本校も昨年度から今年度にかけて34人減っている。クラスも減っている。危機的な状況だ。農業の担い手も必要、人口そのものが激減するので、市の魅力を何らかの形で宣伝するというのを前面に出すのは賛成だ。

小宮山委員 県内では中学生の取り合いになってきている。そこを県外から引っ張ってこれるというのが大事だ。

千葉 県内の農業高校3つのうち、県南の拠点となる農業高校は水沢農業高校だ。本校の役目は県南の農業経営者をしっかりと育成することにかかっていると思う。行政だけでなく、この地域のJAを味方につけて資金を調達してはどうか。農業後継者の確保が大きな課題なので、農業団体へ働きかけることで実現に近づくのではないか。

藤田 では委員の皆様から「賛成」ということで進めさせていただいてよろしいでしょうか。(承認の拍手)

(10) 意見交換・感想 (時間となったので2名のみ)

梅田 「地域みらい留学」に参画できれば、地域や奥州市にとって未来への投資になる。実現できれば素晴らしいと思う。

高橋 「地域みらい留学」希望が持てる。地域のJAやいろいろな団体に声をかけてバックアップしてもらうのは大変良いアイデア。またドローン導入は本校の強みになると感じた

(11) 諸連絡

次回は11月頃を予定している。7月にオープンスクール、10月に水農祭もあるので足をお運びいただきたい。

(12) 閉会 15時00分に閉会。